溶液とする（５μg／mL、10μg／mL、15μg／mL、20μg／mL及び25μg／mL）。標準溶液をそれぞれ20μLずつ用いて次の操作条件で液体クロマトグラフィーを行い、得られた液体クロマトグラムからジフェニルカーボネートのピーク高さ又はピーク面積を求め、検量線を作成する。

操作条件

カラム充てん剤　オクタデシルシリル化シリカゲルを用いる。

カラム管　内径4.6㎜、長さ250㎜のステンレス管を用いる。

カラム温度　40℃

検出器　紫外部吸光検出器又はフォトダイオードアレイ検出器を用いる。波長217nmで操作する。

移動相　A　アセトニトリル　B　水

濃度勾配　A：B（３：７）から（100：０）までの直線濃度勾配を35分間行った後、アセトニトリルを10分間送液する。

⑵　試験

試験溶液20μLを用いて⑴　検量線の作成の場合と同様の操作条件により液体クロマトグラフィーを行い、得られた液体クロマトグラムからピーク高さ又はピーク面積を求める。検量線を用いて試験溶液中のジフェニルカーボネートの濃度を求め、次式により材質中の含量を求める。

材質中の含量（μg／g）＝試験溶液濃度（μg／mL）×20（mL）／試料の重量（g）

総乳酸

⑴　定性試験

試験溶液及び乳酸標準溶液をそれぞれ１mLずつ採り、0.2mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液を100μLずつ加えて密栓し、60℃に保ちながら時々振り混ぜて15分間放置する。冷後、0.2mol／Ｌリン酸を100μLずつ加える。これらを100μLずつ用いて次の操作条件で液体クロマトグラフィーを行い、試験溶液の液体クロマトグラムのピークの検出時間と乳酸標準溶液の液体クロマトグラムの乳酸のピークの検出時間を比較する。

操作条件

カラム充てん剤　オクタデシルシリル化シリカゲルを用いる。

カラム管　内径4.6㎜、長さ250㎜のステンレス管を用いる。

カラム温度　40℃

検出器　紫外部吸光検出器又はフォトダイオードアレイ検出器を用い、波長210nmで操作する。

移動相　リン酸、アセトニトリル及び水混液（0.1：１：99）を用いる。乳酸が約５分で流出する流速に調節する。

⑵　定量試験

定性試験において試験溶液の液体クロマトグラムのピークの検出時間が乳酸標準溶液の液体クロマトグラムのピークの検出時間と一致するときは，次の試験を行う。

定性試験の操作条件の下に得られた試験結果を基とし，試験溶液中の乳酸のピーク面積を測定するとき，その面積は，乳酸標準溶液のピーク面積より大きくてはならない。